

平成30年度 学校評価結果報告書

当園ではこの度、平成30年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが自らの教育活動や園運営の状況を顧みること、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの自己評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受け止め、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

園生活を通じて、素直で明るい子、元気な子、ひらめきのある子を育てる。

II. 今年度の重点目標

幼稚園に対する時代の要請が日々変化していく中、的確に保護者のニーズに対応しつつ、全教職員が初心に戻り、当園の教育目標に対し邁進する。前年度の自己点検・自己評価を意識し各自が見直すべきところを重点的に取り組みスキルアップを目指す。

III. 評価項目と達成状況

A 達成されている B やや達成されている
C あまり達成されていない D 達成されていない

正職・パート21人回答

評価項目	番号	具体的確認項目	評価			
			A	B	C	D
1.教育方針・目標	1	教育方針・目標は園の特色を生かしたものになっている。	19	2	0	0
	2	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。	18	3	0	0
	3	園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育方針に従い編成されている。	19	2	0	0
2.指導計画の作成と評価	4	自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に生かせるよう取り組んでいる。	14	7	0	0
3.教育環境の構成	5	子どもが安全で心地よく、幼児期にふさわしい生活が送れるような環境を整えている。	18	3	0	0
	6	幼児を温かく受け入れる環境をつくり、人と関わる力が育つような配慮をしている。	19	1	0	0
	7	異年齢の幼児が自然に交流出来るような環境構成をしている。	9	10	2	0
4.幼児のみとりと理解	8	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受けとめるよう努めている。	16	5	0	0
	9	一人の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることが出来る。	9	11	1	0
	10	幼児の理解のために保護者と話し合う機会を持っている。	10	8	3	0
5.先生としての心掛け	11	『先生のようにやってみたい』と幼児が思うような、モデルとしての姿を心掛けている。	10	9	2	0
	12	教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心掛けている。	11	8	2	0
6.教職員同志の協力・関係	13	教職員全員が、全ての幼児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている。	15	6	0	0

評価項目	番号	具体的確認項目	評価			
			A	B	C	D
7.安全への配慮	14	体調が悪そうな時は、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭に連絡している。	17	4	0	0
	15	子ども達に対する安全教育を実施している。	18	3	0	0
	16	施設・設備は常に整備され、室内は清潔で整理整頓が行き届いている。	15	5	1	0
8.保護者との連携	17	個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話、連絡帳など使って伝えあっている。	17	4	0	0
9.個人情報の保護	18	個々の子どもの情報は口外していない。	21	0	0	0
	19	子どものプライバシー保護について、規定・マニュアル等が整備され、基本的な知識や姿勢・意識が教職員に周知されている。	16	5	0	0
10.地域との関わり・関係	20	地域の人々と親しく挨拶や会話を交わしている。	3	16	2	0

IV. 結果からの考察

前年と比べ数値的にはあまり変化が見られないが、B評価をしている人が減っている。

【達成されている】と評価出来る項目が増えたことは意識して取り組んでいることに繋がる。

地域との関わりについては、園外での活動が難しいことから関わりが持てていないことは事実である。

小学校との連携・接続を考え、地域との関わり方を見直していきたい。